



「春日学園をどんな学校にしていきたいか」「どんな子供たちを育てていきたいか」「子供たちにどんな力を身に付けてもらいたいのか」

子供たちへの思いを真ん中にして、そんなことを話し合う「学校運営協議会」を位置付け、令和6年度から「春日学園コミュニティ・スクール」本格導入に向けて、準備を進めています。この1年間の「春日学園CS推進会議（準備会議）」の取組をまとめました。



＜CS推進会議の構成メンバー＞

地域の方4人 学識経験者2人

PTA関係2人 関係行政職員1人

学校職員6人

合計 15人

第1回CS推進会議 5月18日(木)

熟議テーマ  
「自ら学び、伝え合い、高め合うことができる児童生徒の育成～豊かな心の触れ合いとは～」

⇒はじめに、学校グランドデザインと映像資料をもとに、学校教育目標や目指す児童生徒像について説明し、共通認識をもちました。熟議では、春日学園生の様子から、豊かな心の触れ合いをキーワードとして、家庭・地域・学校はどんな願いをもって子供たちと関わっていくかについて話し合いました。グローバルに活躍してたくましく生きていけるように願っているが、**身近な地域へも目を向けてコミュニケーション力も高めてほしい**ことが明らかになりました。

★新設校であるがゆえに、「地域ぐるみ」となるような学区内の地域育成と地域資源の洗い出しが課題となりそうです。



第2回CS推進会議 7月13日(木)

熟議テーマ  
「授業等の様子から見える児童生徒の成長をどう見守り、支えていくか」

⇒授業参観した後に活発な意見交換が行われました。ICTの活用がされて学習者用端末でグループで活動しながら学んでいる授業が展開されていました。教えから学びへの授業改善が進んでいる一方で、学びの過程をしっかりと把握していくことの困難さも考えられるとの意見がありました。春日学園生の学びを支えるためには、1～9年生の関係性を大切にすること、さらに卒業関わりつながりを保ち続けられること、そして、**悩んだり困ったときに相談できる相手が先生方や親だけでなく、地域でも見守っていけるようなつながりを作っていきたい**との方向性が示されました。

★やはり、「地域ぐるみ」となるような地域資源の活用が課題となりそうです。



第3回CS推進会議 11月7日(木)

熟議テーマ  
「義務教育学校の特色を生かしたダイナミックな教育課程編成に向けて」

⇒春日学園祭開催中の校内を紹介することで、教育活動における子供たちの学びの成果の一端を感じてもらいました。教育課程に地域としてどのように関わることで、協働しながら発展していけるかを考えました。これまで本学園が重視してきた**小中一貫教育ならではの「教え合い」「異年齢交流」「体験活動」を、より地域に根ざした内容にすることで、「いつか自分も・・・」**と思えるような循環型の取組を目指してほしいとの示唆をいただきました。

★「地域ぐるみ」となるような学校を開放する機会や場のアイデアがでました。



第4回CS推進会議は、令和6年(2024年)2月21日(水)を予定しています。

本年度の教育活動や学校評価等についての報告を、次年度に向けた協議を検討しています。

【振り返りと今後について】

- ・このコミュニティ・スクールの仕組みが、保護者や地域の方々とともに春日学園も育っていく「循環」の仕組みとなるよう、10年後をイメージして、学校運営を進めていくことの大切さを感じました。
- ・多様な考え方を柔軟に取り入れ、豊かな心の触れ合いによって、コミュニティ・スクールとして地域とともにある春日学園の姿を目指したいと思います。